



中川村四徳地区を 襲った三六災害

昨年は、自然災害の多い年でした。
勢力の大きい台風が何度も上陸し、新潟中越地震による震災
そして世界ではスマトラ沖地震・・・多くの災害による被害が発生しました。
いつどこで起こるかわからない自然災害
ずっと昔にも伊那谷に三六災という大きな自然災害がありました。
そして三六災により四徳集落に住む人がいなくなってしまったのです・・・
災害により故郷を失ってしまった住民の方々が～ふるさと四徳～を文字に残しておき
たいという思いで「四徳誌」という1冊の本が出来ました。
今回はその本の中から、三六災について振り返ってみたいと思います。



写真：農協付近より、無惨な下方を見る（源平地の山ナギも見える）

折草峠に登って中川村四徳地区を見わたすと一面が荒河原だった。家が倒壊し、土砂と家の柱にはさまれて死んでいる人の姿も見られ、あたりは目を覆うばかりの惨状だった。住民は付近の山林に退避していたが、災害時の状況を聞いてみたところ、27日夜、10時頃から東西の山の方よりゴゴゴという無気味な音が鳴り響いたという。約1時間もたった頃、ズズーと唸りながら突然地震のように家が崩れ出した。各家とも、外にとび出したが豪雨のため付近一帯は真っ暗でお互いに呼び合いながら付近の山林に逃げこんだ。恐怖の一夜は明け、翌朝(28日)になったが、家は流され、集落は後かたもないほど一面の荒河原と化し、流れ出てきた大きな石がいたるところに転がっていた。残った家も危険に類しているため、家に帰ることもできぬまま、炭小屋、高台の家に非難して雨をしのいだ。雨の中を食料運びに帰ろうとしたが、肝心の農協食糧倉庫も流されているので、住民は生活への不安におののき、失くした家族を探し求めて歩く人もいた。昨日までの山間の平和郷は一変して地獄と化したのであった。この短い一昼夜での四徳の被害は甚大であり、その被害は不幸にして死亡者7名、重傷者2名、家屋の被害状況は61戸もあり水田、畑、公共建造物等も被害を受け、四徳全体が壊滅的打撃を被ったのです。

被災翌日の6月28日には、早くも中川村に対して「災害補助法」が適用され、国や県などから直接に救助を受けられる事となり、村当局、消防団などの適切で、積極的な救援活動が進められた。災害により打ちのめされた四徳地区の住民は、救助の手がすぐ立ち上がる事ができたのです。大災害に生活のすべてを失ってしまった四徳住民に、全国各地の、あらゆる人々からさしのべられた厚い愛情の救援の数々は、辛うじて生き残った住民一人一人の人生観を変えてしまうほどに強い影響があり、一日も早く立ち直って、この深い恩情に報いねばならないと住民一人一人が深く心に誓ったのである。

～三六災後の四徳～

大災害である三六災によって、四徳という集落は完全に姿を消し去るという悲しい結果となってしまった。住民が一人残らず難散して他の地域に移住し、廃村という全く予想もしなかった事態となった。しかし、全住民が、生まれ育った故郷を捨てて、見知らぬ他の土地に集団移住をしなければならないという異常な事態は、簡単な経緯で進行したのではない。故郷を捨てるまでにふんぎりをつける苦渋は暗く厳しいものがあつたのである。集団移住という、新しい展開を迎えた住民は、それぞれ移住受け入れ市町村の助けにより、自己の希望する市町村に移住を決意して新しい第二の故郷に向けて、峠を越える計画に入ったのである。やがて、それぞれに移住先も決定し、移住先の市町村の厚意によって、応急の住宅も用意され新しい生活へと移って行ったのです。三六災害から43年余りが過ぎましたが、ずっと昔、そこには集落があつたこと、大きな災害があつたことをずっと語り伝え、忘れないでほしいと思います。



現在、四徳地先で流出土砂対策として掘破沢砂防堰堤を建設するための工用道路を施工しています。工事に対しては万全の体制で望みますが、何かお気づきの点がありましたら連絡先に一報をお願い致します。

【住む人の無い ふるさと 昭和55年6月四徳集落】



写真：下村と寺村の境辺より上流をみる

～三六災と四徳～

僅かな耕地と、四囲を取り囲む山林の中で生活してきた四徳地区は、名実共に伊那谷における辺境であり僻地であった。その一面、見方によっては桃源郷でもあり、歴史のある山里でもあった。その桃源郷を一瞬のうちに壊滅させ、無人の荒れ里にしてしまったのが、昭和36年6月の梅雨前線豪雨でした。歴史的に見ると、四徳における豪雨による被害は何度ともなく繰り返されておられ、その度に地区の人々はその被害にもめげずに生活して来ましたが、しかし三六災は、これまでと異なりました。四徳からすべてを根こそぎ奪い取ってしまったのです。この集中豪雨の降雨量がいかに凄まじいものであったかという、中川村の大草では6月24日より6月27日までの4日間の降雨量は418.8ミリメートルであり、特に大被害の発生した6月27日の1日の降雨量は実に310ミリメートルを超えるという驚異的なものであった。これ以上に四徳地域は降雨量が多かった事がわかり、6月27日の1日降雨量は400ミリメートルを超えていたのではないかと思います。

～四徳区の被害状況～



写真：四徳分校の校庭の惨状

連絡先

H16年度 天竜川水系 掘破沢砂防堰堤工用道路工事
現場代理人 近藤 直 【現場事務所】TEL0265-88-3510
【本拠地事務所】TEL0265-87-2211 FAX0265-87-1020

